

令和7年度 三刀屋高等学校(年間評価と今後の改善策)

4段階評価

A:十分に達成できている状況  
C:どちらかといえば達成できていない状況

B:概ね達成できている状況  
D:ほとんど達成できていない状況

今年度重点目標		自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会)	
		R7 肯定的回答の平均(%)	R6 肯定的回答の平均(%)	R5 肯定的回答の平均(%)	評価	概要と今後の改善策	評価	
1 授業の充実	(1)探究学習を軸とした「三高トライアングル学習」の強化 (2)授業改善・ICT機器の利活用(DX化推進) (3)試験問題や学習評価方法の工夫と改善	75.0 教:78.2 生:90.7 保:56.3	68.7 教:72.6 生:78.8 保:54.6	72.7 教:71.7 生:81.1 保:65.4	B	<p>■多くの教員が「学力向上」や「理解の深化」を主眼に置いた授業実践を展開しており、他者の実践を主体的に取り入れようとする教員間の研鑽意欲の向上が見受けられる。一方で授業の相互参観期間の参観率が約7割という不十分な状況であったことは次年度への課題である。</p> <p>■学習意欲の二極化や、学習が単なる作業へと形骸化している生徒がいる現状が課題である。家庭学習の量や質よりも、学習に対する主体性が感じられないことが保護者評価の低さにつながっている一因と思われる。学習の意義を伝えたり、プロセスや主体的な工夫を評価したりすることにより、生徒が学習を「自らの将来に向けた準備」として再定義できるような働きかけについて検討したい。</p>	B	<p>■各教科で行っている「学力向上」「理解の深化」を目指した実践が子どもたちの学習意欲につながるような働きかけについて、継続して模索していく必要がある。</p> <p>■「自らの将来に向けた準備」の育成は大切な課題である。全体へのガイダンスも必要だが、個別の面談等を通し、個々の生徒へのキャリアガイダンスを充実させてほしい。休憩時間等の声かけの蓄積が子どもに響くケースも多いと感じている。</p> <p>■教員が生徒と個別に向き合うためにも、教員の時間的な余裕を創出する必要がある。</p>
2 キャリア教育	(1)3年間の見通しとねらいの明確化、振り返り (2)地域資源の活用、多様な文化や価値観との出会い (3)教科学習、進路実現との連携	82.5 教:86.9 生:92.0 保:68.5	82.3 教:80.4 生:85.5 保:80.9	74.9 教:75.4 生:85.2 保:64.1	B	<p>■昨年度から実施している1・2年生対象の進路講演会等が生徒の進路意識向上や主体的な行動につながっている点は一定の評価ができるが、さらに生徒面談を通して個々の生徒の指導が必要である。</p> <p>■探究学習についてはカリキュラムが教職員間で定着してきている。今年度試みた生徒の探究内容と教職員の指導可能分野のマッチングのような教職員の負担軽減の工夫を継続したい。</p> <p>■キャリア教育に関する情報が保護者に十分届いていないと考えられる。広報物やホームページを通じた情報発信を充実させていきたい。</p>	B	<p>■個別のキャリア教育の充実に向けて、AIを用いたプログラムを研究するのも一案である。将来ビジョンの育成を個別最適化することができれば学習意欲の向上にもつながる。</p> <p>■探究テーマが生徒の興味関心と合致していないケースがあると感じる。テーマ設定の自由度を上げてはどうか。</p> <p>■入学者選抜の特色選抜における面接では、将来のビジョンを聞かれることが多い。中学生への学校説明会で、早い時期に質問の方向性を示すことによって、時間をかけて将来について考えるきっかけを与えてもらいたい。中学校でのキャリア教育にも有意義である。</p>
3 自己表現の環境づくり	(1)部活動等の活性化、教育活動としての価値の再構築 (2)生徒会や生徒発の活動の推進など生徒主体の活動の活性化 (3)活躍の機会や場の創出と積極的発信	92.1 教:91.0 生:94.7 保:90.5	90.0 教:90.0 生:90.8 保:89.1	92.4 教:94.4 生:91.8 保:91.0	A	<p>■部活動について、休養日の設定や帰宅時間、試験期間中の部活動についてのトラブルもなく、概ね良好な状況である。保護者、地域の皆さまにも部活動運営に協力していただいた。引き続き学習とのバランスをとりながら、適切な部活動の運営に努めたい。</p> <p>■生徒会活動について、高い生徒評価となっている。生徒会執行部による朝の挨拶運動、身だしなみの呼びかけ等の企画、校則や学校行事の見直しなどの主体的な活動を目に見える形で行った結果であると分析する。</p>	A	<p>■生徒は部活動を通して高校生活を充実させている。</p> <p>■部活動数が多いことが学校の魅力となっている一方で、教職員の負担にもつながっている。バランスをとりながら考えていく時期にある。</p> <p>■部活動の活躍については、地域も注目している。中学生にアピールする点でも、部活動結果の情報発信は有効である。</p>
4 安心・安全な学びの環境づくり	(1)人権教育・道徳教育の推進 (2)生徒理解と組織的支援 (3)教育環境・生活環境・職場環境の整備と快適化	94.8 教:93.6 生:96.9 保:93.9	93.5 教:91.5 生:95.2 保:93.9	94.7 教:93.9 生:95.5 保:94.6	A	<p>■服装について生徒に発信することが多かった。教職員全体で校則について共通理解を持ったうえで機会を捉えて指導したい。また、担任、学年部、部活動顧問と連携した指導体制づくりを生徒部を中心に進めていく。</p> <p>■大きな交通事故はなかったが危険箇所の確認や注意喚起について、雲南警察署と連携した対応を継続していく。</p> <p>■いじめの防止及び早期問題解決について、認知の遅れによる対応困難なケースは見られなかった。未然防止、早期問題解決に対する教職員の意識向上に努め、組織としての対応を継続する。また、引き続き生徒の人権意識の啓発に向けた学習を行う。</p> <p>■特別支援について、教職員から理解や協力が得られ、合理的配慮が必要な生徒に組織的に対応することができた。</p> <p>■環境に関する評価がやや低くなっている。学年会や分掌と連携しながら、学習環境の向上に向けて、生徒の私物管理の指導が必要である。また、清掃の監督について十分な指導ができるような配置の工夫をしていきたい。</p>	A	<p>■環境づくりに卒業生会の寄付金を活用するとよいのではないかと感じる。</p> <p>■地域で見かける生徒に服装や頭髪の乱れを感じることはない。挨拶もよくしてくれ、礼儀正しい生徒が多いと感じている。</p> <p>■制服が新しくなってから3年になる。地域でも定着し、好印象である。</p> <p>■交通安全に関しては、地域の交通安全協会との連携をしてほしい。</p> <p>■いじめについて大きな問題に発展したケースはなく、初期段階で対応することができたとの説明があった。特別支援も含め、個別対応が必要な時代となっていると感じている。</p> <p>■授業見学をした際に、教室内の荷物の多さに圧倒された。特に教材が机や床に積まれているのが気になった。継続して私物管理(自己管理)の指導が必要である。</p>
重点目標以外で評価を求めたい項目 (学校からの情報発信について)		81.3 教:82.9 生:89.8 保:71.3	93.6 教:100.0 生:93.6 保:87.2	93.6 教:100.0 生:93.6 保:87.1	B	<p>■部活動をはじめとした情報発信が不十分であった。学校が考えるよりもタイムリーな情報発信へのニーズが高いことも今回明らかになった。教職員のスマートフォンで生徒の活動写真撮影ができなくなったこともふまえ工夫が必要であるが、各部署と連携して、保護者だけでなく地域や中学生への積極的な情報発信に努めたい。</p> <p>■学校だよりは校内だけでなく、大東町をのぞく雲南市内に年2回届けている。</p>	B	<p>■ホームページの「保護者・関係者のみ」のページにはパスワードがかかっているが、学校運営協議会委員やその他学校との関係が深いところにはパスワードを公開する方がよい。</p> <p>■ケーブルテレビを活用した情報発信を増やしていくとよいのではないかと感じる。</p>